

水稻生産者の皆様へ

代かきによる濁水の河川流出を防止しましょう

環境にやさしいお米作りを進めるため、生産者の責務として代かき時には以下の項目を遵守しましょう。

- 1 代かき水の漏水防止のため、ほ場への入水前に畦や排水口周辺を点検し、必要に応じて補修を行いましょ。【点検のポイント】
 - (1) 畦が崩れていたり、穴などの漏水箇所があれば補修または畦塗りを行う
 - (2) 止水板を閉めたときに排水口に隙間を生じさせない
- 2 代かきは、浅水状態（土面が見える程度）で行いましょう。
- 3 代かき時は止水板を高くし、トラクターの走行作業で水が排水口から流れ出ないようにしましょう。
- 4 田植えの3日以上前に代かきを行い、代かきの作業時及び作業後は落水しないようにしましょう。
- 5 1から4に加え、濁り水防止用の凝集剤（塩化カリ、20kg/10a）の代かき前日散布もしくは代かき同時散布の実施に努めましょう。



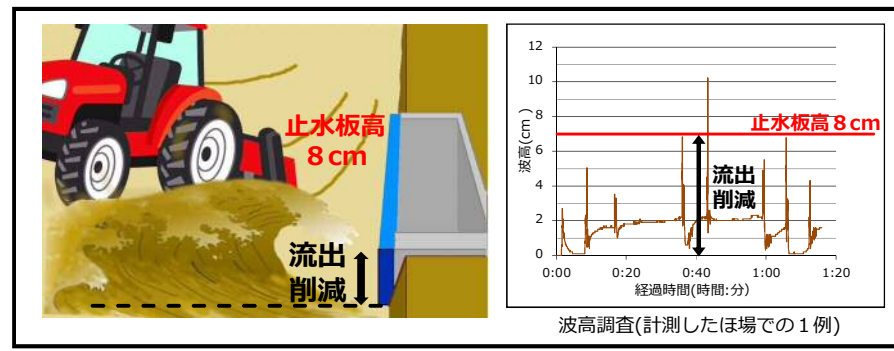
浅水状態における代かきの様子

代かき時の濁水流出防止のポイント

1 止水板高は水面から8cm以上を確保する！

～トラクター走行で発生した波による流出を防止～

- ・代かき時の波高調査の結果、発生する波の高さはおおむね7cmでした。
- ・止水板高を水面から8cm以上とすることで、多くの波を堰き止めることができます。



2 かけ流し（水の出しっぱなし）は絶対にしない！

～かけ流しによる代かき水流出は甚大な河川汚濁につながります～

- ・排水路中の濁り（SS濃度※）を調査した結果、代かき直後のかけ流しにより、水田から水が流出した水路で著しい汚濁が認められました（図1）。
 - ・代かき直後の田面水は高濃度の濁水です。排水路に流出すると、河川の汚濁原因となります（図2）。
- ※SS濃度…水中を浮遊する1μm～2mmの粒子の濃度（土の粒子を想定）

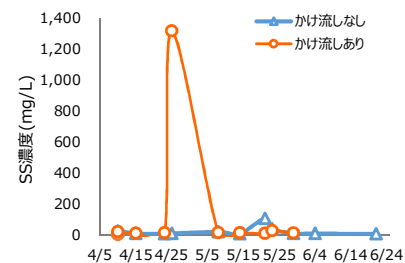


図1 農業排水路の濁り（2019年移植期）



図2 代かき水流出と河川汚濁の様子